

白井市総合教育会議会議録

○会議日程

平成27年10月28日（水）

白井市役所4階第1会議室

1. 開会宣言

2. 議題

議題（1） 教育に関する大綱の中間報告について

議題（2） 意見交換について

3. その他

○出席委員

市長	伊澤 史夫
教育委員長	石亀 裕子
教育委員	小林 正継
教育委員	高城 久美子
教育委員	川嶋 之絵
教育長	米山 一幸

○欠席委員

なし

○出席職員

教育部参事	藤咲 克己
学校教育課主幹	中村 幸生
生涯学習課長	鈴木 栄一郎
書記	風間 信也
書記	品川 太郎

午前10時00分 開 会

○開会宣言

○事務局 定刻となりましたのでただいまから平成27年第2回白井市総合教育会議を開会します。はじめに、伊澤市長よりごあいさつをお願いします。

○伊澤市長 教育委員の皆さんおはようございます。本日は大変お忙しい中、第2回目の総合教育会議に出席いただきまして誠にありがとうございます。今回から新たに教育委員として川嶋委員が10月1日から就任されましたので、この会議では初めてとなりますのでよろしくお願いします。

○川嶋委員 よろしく申し上げます。

○伊澤市長 第1回目の会議におきましては、地方公共団体の全てにおいて総合教育会議を設置することと、教育に関する大綱を策定することが義務付けられたことなどについて共通理解を図ってまいりました。当市においては来年度から10年間の計画期間である第5次総合計画について6月の議会において基本構想が議決され、決定しております。この基本構想では将来像を「ときめきとみどりあふれる快活都市」として、重点戦略に「若い世代定住プロジェクト」「みどり活用プロジェクト」「拠点創造プロジェクト」を定め、重点的に取り組んでいくこととしております。今後は前期の5カ年の基本計画を12月議会に上程して、実施計画と併せ、来年2月ごろには策定できるものと考えております。

この総合教育会議については市長と教育委員会協議・調整の場として市長が主宰するとされております。また、教育に関する大綱については第5次総合計画の策定と併せて策定することとなりました。今回の会議においては教育大綱の中間報告を中心に検討していきたいと思っております。委員の皆様方には忌憚のない意見を賜りますようお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。早速これから議題に入りたいと思っております。進行につきましては伊澤市長にお願いしたいと思っております。

○議題（1） 教育に関する大綱の中間報告について

○伊澤市長 それでは早速議題に入らせていただきます。

議題（1）「教育に関する大綱の中間報告について」事務局より説明願います。

○事務局 それでは説明に入らせていただきます。

まず、教育の大綱は、第5次総合計画とリンクしたものとして策定することとしておりますので、基本構想や前期基本計画素案のどの部分がリンクしているかについてご説明いたします。

「基本構想」の3ページをご覧ください。「ときめきとみどりあふれる快活都市」を将来像として掲げ、取り組むこととしております。

また、5ページをご覧ください。4番の「まちづくりの重点戦略」のなかで、「戦略1」「若い世代

定住プロジェクト」及び「戦略3」「拠点創造プロジェクト」に教育分野の重点戦略が含まれております。

続きまして「前期基本計画素案」の7ページをご覧ください。「戦略1」の「若い世代定住プロジェクト」の戦略の柱、その3番目に「子育てしたくなるまちづくり」があります。「取組目標」の3つ目「子ども一人一人とさらに向き合い、「子どもの教育なら白井」といわれるまちづくりを進めます。」が教育分野になります。また、この目標実現に向けた取り組みとして、3番の「地域での親や子どもたちの居場所づくりや子育て支援のしくみづくり」と4番の「児童・生徒の個性に応じた学力向上など生きる力を育む教育の推進」の部分が教育分野になります。

次に、14ページをご覧ください。「戦略3」「拠点創造プロジェクト」の戦略の柱、その2番目に「地域拠点がにぎわうまちづくり」があります。「取組目標」の2つ目「各地域に大小様々な交流の場やサービス提供の場などをつくり、充実させることで、安心して快適な生活を送れる地域づくりを進めます。」が教育分野になります。また、この目標実現に向けた取り組みとして、4番の「地域の人や団体を活かした生きがいつくりや健康づくりの場の充実」の部分が教育分野になります。以上が基本構想、前期基本計画素案で重点的に取り組む教育分野でございます。

それでは、教育大綱の素案につきましてご説明いたします。大綱の素案2ページをご覧ください。

「教育大綱の位置付け」を記載しております。法律改正により、総合教育会議において大綱を策定するものでございます。次に、「大綱の実施期間」でございますが、第5次総合計画の前期基本計画に併せ、平成28年4月1日から5年間とするものです。「施策の実施」ですが、第5次総合計画に掲げる教育分野の重点戦略や基本戦略の達成に向け事業を実施していきます。「計画の体系」ですが、施策の実施をイメージ化したものでございます。

3ページに入りまして、5番として白井市の目指す「教育目標」につきましては、平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年6月の学校教育法の改正や学習指導要領に基づき、平成23年度から教育方針を定めており、目標についても同様としております。

続きまして「重点目標」でございます。第5次総合計画の将来像である「ときめきとみどりあふれる快活都市」の実現に向けて、前期基本計画における学習・教育分野で重点的に取り組んでいく戦略を定めています。先程説明いたしました、基本構想、前期基本計画素案の教育分野について記載しております。

「戦略1」は、「若い世代定住プロジェクト」でございます。この中の教育分野については、「取組目標」の「子ども一人一人とさらに向き合い、「子どもの教育なら白井」といわれるまちづくりを進めます。」という目標を掲げております。

「戦略3」は「拠点創造プロジェクト」でございます。この中の教育分野については、「取組目標」の「各地域に大小様々な交流の場やサービス提供の場などをつくり、充実させることで、安心して快適な生活を送れる地域づくりを進めます。」という目標を掲げております。

続きまして4ページの「基本目標」でございます。これらにつきましては、学習・教育分野における基本的な目標を定めたもので、第4次総合計画を継承したものでございます。

1番目の「学校教育の充実」については、子どもの確かな学力と豊かな心と体を育むとともに、地域に根ざした教育を推進します。また、子どもが安全で安心に学べるよう教育環境を整備します。

2番目の「生涯学習の充実」については、様々な年代にわたる市民の多様なニーズに応え、生涯にわたる学習機会の充実を図るとともに、学習した成果を市民生活や市民活動などに生かせる仕組みづくりを進めます。また、学習活動をしている市民が活動しやすい環境づくりを目指します。

3番目の「スポーツの振興」については、より多くの市民に、安心・安全にスポーツに親しめる機会を提供するとともに、子どもから高齢者まで誰もが生涯を通してスポーツに親しみ、健康づくりや地域での交流が図れる環境づくりを目指します。

4番目の「文化芸術活動の支援」については、市民による文化活動を支援し、多様な文化・芸術に親しめる機会を提供します。また、郷土の歴史や文化遺産の調査・保存を推進するとともに、市民と協働しながら文化財の保護活動を行います。以上が基本目標でございます。

資料4をご覧ください。教育分野における各事業でございます。重点目標に係る事業や基本目標に関する事業など、教育分野の各事業を掲げておりますので参考にしてください。

このように、大綱では教育に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるもので、具体的な事業については別に定めることとしております。

それでは以上で議題（1）教育に関する大綱の中間報告についての説明を終わります。

○伊澤市長 ただ今、事務局から説明がありました。委員の皆さまには何か質問、若しくは意見等がございましたらお願いします。

○米山教育長 大綱の3ページ、戦略1の取組目標「子どもの教育なら白井」といわれる街づくりを進めますということで、これは新しく白井に転入してくる人を目指しているのか、また今白井に在住している人たちを対象にしたものなのか、それとも両方なのか。それで「子どもの教育なら白井」という、大上段に構えた大きな目標にあたるので、これについては教育委員で具体的に「こういうものが必要だ」とか「こういうものはいらない」というのをどこかで話し合いをしていかないといけないのかなと思います。

基本計画で「子どもの教育なら白井」というのを市外の人に求めるのか、市内の今学校に通わせている保護者に向けてなのか、ただ、教育委員会として出来るのは市外の人を呼び込むというよりは今の在住の子どもたちの保護者に対する教育を外部から客観的に見てもらって転入する、また、長い期間定住するというようなものを教育委員会から発信していかないといけないというように思いますので是非この辺は具体的に教育委員の中で明らかにしていくような方向が必要なのかなと思います。

○伊澤市長 ありがとうございます。ただいま基本的には教育委員会としては今いる子たちに対してやっていくということで、今度は新たな転入というのは教育施策ではない、街づくりの施策にも絡んでき

ますので、それらを総合的に関連させながら新たに転入されてきた方々も一緒にこの白井で「子どもの教育なら白井」という、逆に言うとそれを見て「白井に來たい」という人が増えれば一番良いんですけどね。

事務局のほうでは何かありますか。

○中村学校教育課主幹 具体的な取り組みということでご説明させていただきたいと思います。総合計画の前期基本計画の素案の中で先ほどもございましたように「子どもの教育なら白井」と言われるような街づくりということが掲げられている訳ですけども、その中でこの目標の実現に向けた取り組みということも掲げられております。そこで児童生徒の個性に応じた学力の向上など、生きる力を育む教育の推進というところで地域の人材を活かした授業や補助教員の配置など、児童生徒一人ひとりと向き合うきめの細かい学校教育を充実していくということを掲げております。

例えば今現在実施しているものとしたしましては、補助教員の配置事業ということで例えば少人数指導、あるいはそれぞれのきめ細かい活動を補助するために補助教員を配置する、あるいはそれぞれの児童生徒の状態に応じて学習支援を行う補助教員を配置するということを行っておりますので、そういったところを更に充実していければというように思っているところです。

それと、地域の人材を活かした授業といったところでは、例えば特色ある学校の学校づくりの推進事業といった中では、地域の人材を活用いたしまして特別授業を行ったり、あるいは中学校等での部活動に地域人材を活用して部活動のサポートを実施しているといったところがございますので、戦略事業としたしましてはこうした地域人材を活用した事業、あるいは補助教員の配置において個々に対応したきめ細かい学習活動に取り組みたいと考えております。これを一つの白井市の特徴といったところで位置付けられればということで考えております。

○伊澤市長 ありがとうございます。

○米山教育長 今の説明の補足です。補助教員を活用した学級、少人数指導というのがありましたが、今は各学校の校長の裁量権で少人数指導をやる、やらないという判断を任せています。反対にもう少し打ち出すのであれば、印旛郡市で補助教員を配置しているのは白井市と成田市ぐらいで、たぶん印西市も全体で介助員含めて10人居るか居ないかという状況だと思います。約2,800万円近くの予算を持っているので、補助教員については圧倒的に白井市の方が活用しているということになります。

それで、保護者の理解が得られればですが、習熟度別、理解度が進んでいる子ども達のグループと理解度が遅れている子ども達のグループを分けて習熟度別に、例えば算数と国語というような形で分けていくのも、反対に教育委員会の方から各学校の校長の裁量権ではなくお願いしていくのも一つかなというように思っています。そうすればどんどん進んでいる子どもについてはもっと進められる、また、基礎基本が身に付いていない子どもについては、基礎基本の定着を重点にしていくというような形にもできるので、まずその子の個にあったグループ分けをしていく補助教員の活用が必要かなというように思います。

あと、インクルーシブ教育ということで、支援学級の子ども達が将来に向けて社会参加をしていかなければいけないという大きな目標・目的を持っています。これについても、今担任と介助員がやっていますけれども、やはり担任の先生が特別支援のプロではないということがあり、県教委で人を育てていないということがあるので、現在、県教委には特別支援学校の先生と通常の学校の先生方の交流をどんどん進めてくれと申し入れています。そうすれば、白井市でも教員を特別支援学校へ2年間くらい交流で研修に出すから、その間特別支援学校の先生をこちらへくださいというようなことで話をしていますので、特別支援教育についても担任の専門家を育成したい。

特別支援の指導主事を配置している市町村というのもたぶん白井市と成田市だけだと思います。今、専門的な力を持った、資格を持った指導主事がありますので、その者が各学校14校全校に特別支援学級がありますので、まわるのは大変忙しいんですけれども、指導主事が中心になって担任の先生をアシストしていくというような状況なので、その辺も「子どもの教育なら白井」ということでアピールしていけるところなのかなと思います。

ただ、財源的に毎年3,000万円という人件費がかかっています。おとといのニュースで文科省が教員の数を減らすというのが出ていたので、今、加配とか増置とかということでやっていること、例えばすごく生徒指導が必要な学校については県の方から1名加配が来たりとか、適応指導教室のために加配が来たりとか、ただ、1名来たところで全体の中ではどの程度カバーできるのかというところは分からないので、やはり補助教員と介助員の予算は担保していかなければいけないということで考えております。ただ、成田市のように財源が豊かなところは多くの補助教員を充てられるというところがありますが、財源とも照らし合わせながら白井の教育をアピールしていきたい。

一昨日も北総教育事務所の次長訪問があったんですけれども、七次台小学校へ行ったときの挨拶の中に最後にスポーツテストと学力テストの結果も伴うようにお願いしますと言ったんですけれども、結果だけの数値を見るのではなく、前年対比で各学校各学級がどれだけ上がっているかということで全体の位置づけも必要かもしれないけれど、その学校の前年対比を向上するような形で教育委員会として学校をどうやってアシストしていけるのかということを出す必要があるのかなというように思います。

あと、子どもの教育なら白井ということでハード面でどれだけ出来るかというように考えています。それから、県から白井で小中連携をどこかでやってもらえないかという話が現在あります。文科省も県も小中連携を進めていきたいというところがあるのでそういう話が出ています。ただ、文科省の言う通りにやると規格どおりにやらないといけないので、やはり市にあった形での小中連携を認めてくれるのであれば、考えないこともない。ただ、文科省の規格どおりにやるのは大変難しいし、白井市の小中の運営にあっていない学校になってしまうと大変難しいです。たまたま南山・大山口は小中近いし、桜台は校舎が一緒になっているという物理的な面では可能性があるんですけれども、やはり中学校の先生が小学校に教えに行ったり、小学校の先生が中学校へ授業に行ったり

というような形で、中学校へ入学する段階で一定の基礎基本が身についているという状況を教員同士が確認できる、学校同士が確認できる体制は必要なのかなというように思っています。

今、他市町村でやっている小中連携というのは統廃合に伴って学校を廃校にして新しい学校を建てて、そこに小中を入れてしまうという形の小中連携が多いので、白井市のように別々になっている学校がどうやって連携を取るのかというのはシステマ的にも教員の免許を含めてちょっと大変なのかなと思います。それで、小中両方の免許を持っている教員は半分くらいしか居ません。小学校の先生が中学校に行き行って教えられるかという免許が無いので教えられるので、その辺もちょっと県のほうで免許を取りやすくするというとおかしいんですけども、夏休み期間中とか、大学の講座を受けることによって小中の免許が取れるようにしてくれば小中連携は可能なのかなというように思っています。

色々な形で「子どもの教育なら白井」を教育委員として話し合いをして、それを学校にやらせるというスタンスではなくて学校の校長の裁量権に対して意見交換をしながら、サジェスションできればしていくという形が良いのかなというように思っていますので、学校教育分野においてはここは重い事業になるのかなと思っています。

○伊澤市長 この大綱について、他の委員の皆さんから質問はありますか。

○小林委員 3ページの拠点創造プロジェクトの中ですけれども、その3行目に交通弱者にも移動しやすい環境づくりというのがあります。教育分野というだけではなくて他の面も含めてなんですけれども、特に私は第二小の近くに住んでいますので、先ほども「子どもの教育なら白井」という関係なんですけど、白井なら教育というイメージを作る中でどうしても過疎地域にあるところは別というか、放課後子どもプラン事業も第二小のためのようなプランになっていますよね。「みどり活用プロジェクト」も市全体の中には入っていますが、それが緑が多い地域、農業の活用というのも良いんですけども、教育はそこだけそのままにされてしまうというか、そうなりやすい。実際に保護者も子どもを第二小に入学させずに大山口小や七次台小に行かせているという状況もありますので、白井全体として教育というものを考えていくときに緑の活用も含めて拠点を作る場合に何か工夫できないかなということを思います。

人が少ないから便数も少なくなるというのがありますが、あの地区でも自由に移動できるとかそういう環境にして交通不便感を少しでも解消して、全体の学校の地域差を小さくして、結び付けられるような、そんなことを考えていければなと思っています。そういう面もこの中で含めて欲しいなと思います。

○伊澤市長 交通弱者についても小林委員がおっしゃったように、子ども達の地域性の問題や第二小を例にしてしまうと、例えば高齢者とか障害者など車に乗れない人とかも交通弱者になります。これは総合計画の方のプロジェクトなので、そこを教育に当てはめるとやはり今おっしゃったように第二小になるかと思っています。今、事務局の方でも小林委員が話したように、地域格差が無いような教育と言いますが、交通を通してですね、そういうのは実際の事業計画なり、何かでカバーできるようなことがあればこれから検討していただければと思います。

事務局のほうではいかがでしょうか。一番大事なことを仰ったのは、例えば第二小を例にとると105人前後の児童数となっていますが、学区内の児童が全員第二小に来ていればもう少し人数が多いだろうというのがあります。というのは、七次台小に行ったり、桜台小に行ったり。それはやはり仰ったとおり、交通の便かもしれないし、他にも色々な状況があるのかも知れないけれどもね。例えばそれが交通において、通学とかにおいてそれが解消できるのであれば少しでもそれが食い止められるかもしれないという意見も小林委員はお持ちだと思えますね。そういうことも踏まえて何か今までの対応もしくはこれからどうして行きたいというのがあれば事務局の方から聞かせてください。

○事務局 一つ戦略的な取り組みということでは、都市拠点と各地域を結ぶ道路のネットワークの整備という事業を掲げております。内容につきましては道路のネットワーク作りをしていきたいという新規の事業でございます。それから、継続事業ですが市道の新設改良を引き続き環境整備をしていきたいということ、あと、交通のネットワークというところがございまして、一つは継続ですがバス運行の推進事業を進めて行きたいということ、併せまして継続ですが鉄道交通を推進していきたいという形で掲げて、拠点作りと拠点が繋がる街づくりという形で掲げております。

詳細についてはこれから個々に実施計画等を作りますので、こういう大きな取り組みを掲げて実施していきたいということになっております。

○小林委員 これからやられるということですね。

○伊澤市長 もう少し時間がありますので教育委員会の中でも色々議論していただければと思います。

○小林委員 例えばバスがもっと通ることによって観光が活性化されることがあると思います。学校教育だけで考えると難しいかもしれないけれども、他の事も含めて交通の便を全体的に考えてその中で学校教育も考える、そんな観点で出来たら良いのではないのかなと思います。

○伊澤市長 ありがとうございます。今回まさしく教育大綱を総合計画と併せて作るということは、街づくりと併せて教育を位置付けていますので、トータルで街づくりが出来ればなという意図が含まれていますので、是非教育委員の皆さんにも色々街づくりに対してご意見やご指導を願えればと思います。

○米山教育長 それに絡めて一点。通学路と生活道路の整備について、環境建設部の方では生活道路を優先で整備していきたいというのがあります。教育委員会としては通学路の安全性を要求しているが、なかなか出来ないというのがあるので、この辺はやはり環境建設部と教育部が連携を持って整備をしていく、一番良い例が第三小学区に住んでいる大山口中に行っている子ども達の自転車がマクドナルドの前の歩道に危険なぐらい一杯になってしまっているという状態があります。あそこは塀もあるので、歩道の拡張は出来ない。ただ、大山口中の自転車の台数は今後も減る可能性は無い。それで総務部長に話をして、近くに土地を借りれないか確認してもらったら、けやき台のところに三角地のようになっている土地があり、そこをええそうという話が出てきました。その辺はやはり教育委員会でも分からないところがあります。他にも七次台小の通学路の整備を含めて、今後教育委員会の中で通学路の安全と生活道路を併せた形の整備を道路課を含めた環境建設部と話し合いをしていくのが必要なのかなと思ってい

ます。この辺の環境づくりの中で通学路の安全対策は街づくりの生活道路を含めて一緒にやっていくというような形で話し合いをしていきたいと思っています。

○伊澤市長 そのほかに何かありますか。

○高城委員 子どもの教育なら白井ということと、生涯学習の充実ということで、やはり両方とも繋がっていると思うんですね。それで市町村とか県とかで、最近は学校支援ボランティアの活動がすごく盛り上がってきていて、各市町村で支援ボランティアの協力とかも相当人数も増えてきているんですが、白井市においてもボランティアの支援の協力とかどんどんしていただいて、そうして学校でボランティアの方が自分の得意なことを披露するということが生涯学習の充実に繋がってくると思うんですね。やはり、高齢者でも得意な分野で子供たちに教えていくということは、技術をどんどん磨いていかないとはいけませんので、ボランティアの登録、それから活動をどんどん盛り上げていただければ良いかなと感じています。第二小などはちょっと前に新聞で「学校自慢」という千葉版のところに太鼓を地区の人に教えてもらっているというのがありました。第二小の特徴は少人数ながらも太鼓で学校全体が盛り上がっている、地元の人に教えてくださるという。また、大山口小は親父の会という会が結構活動していると聞いています。各学校で特色を出してどんどんボランティアを利用してお互い一つになっていけば良いかなと思います。あとは白井高校はとても静かなんですけども、市内に一枚しかない高校ですので何か特徴があれば、あえて言えばサッカーで活躍して目立ってきているかなと思いますけれども、もう少し何かで白井高校を力づけてあげればかなと思います。

○伊澤市長 ありがとうございます。そうしたら事務局のほうで学校のボランティア登録についてもし分かれば、どのくらいあってそれをどうして行くのか教えてください。

○中村学校教育課主幹 それでは今現在ボランティアとして活用している状況をご説明させていただきます。平成26年度の数字になってしまうんですけども、一つは学校図書ボランティアということで学校図書館のボランティアなんですけれども、こちらにつきましては全小学校にありますが36名のボランティアの方にご協力いただいています。

それと防犯ボランティアといったところで、学校の通学路あるいは学校の子供たちの放課後の見守りというようにところで登録をいただいています。そちらにつきましても65名ということで各小学校のボランティアということで登録いただいています。

やはり防犯面につきましては、今不審者情報等も結構流れてきているということがあるんですけども、子供たちへの声かけあるいは見守りといった部分では小学校ごとに登録人数に格差がありますのでその格差が出来るだけ無くなってどこの学校もある程度人数が防犯ボランティアとして登録していただけるようになれば良いなというように考えているところです。

○伊澤市長 ありがとうございます。図書ボランティアと防犯ボランティアですね。今高城委員からあったのは総合学習の時間の中で、その人が持っている経験とかを活かせるボランティアということですよ。

○高城委員 家庭科だったら一緒に縫い物やミシンを教えてあげる。あとは聞いた話ですが丸付けもボランティアの人がしているという市町村もあるということで聞いたことがあります。

○伊澤市長 それはちょっと研究してもらって、子ども達の教育なり興味が広がるような形で出来れば良いと思いますね。あとは学校の手助けも必要なのかな、丸付けなんかは。そこは学校とよく協議していければと思います。

もう一点は白井高校なんですけど、私も白井高校はすごく大事な学校だなと思っています。県立と言えども、市に一つであって市に最も近い学校なので市としても大事にしていきたいなと思います。私も都合の付く限りは卒業式・入学式・青藍祭に行き、校長先生や生徒と話をしているんですけどもね。やはり市内の子ども達、進学希望は色々あるんでしょうけれども、できれば市内で育った子が高校を出て、例えば白井の中で生活をしてもらいたい。

定住プロジェクトとも少し繋がりがあるんですけども、この4月から白井市民の転入転出の統計を取っています。どうして転出するか、どうして転入するかという。中間報告を見たんですが、毎月トータルでは今微増で、広報にも掲載してありますが数人増えています。その中には相当の数、数百人単位で出入りがあります。出入りの結果幾人増えたということになります。その中で多いのは一つの傾向として、子どもの世代が大学入試とか就職を機に引っ越していくとか、来る人は子育ての世代、小学生もしくはその下の世代の子が入ってくる。ですから白井って小学校の子ども数ってまだ増えていますよね。段々白井市の転入転出なりの状況が分かってきているので、そこでやはり定住してもらうには出る人を少なくして、入ってくる人を多くするという施策が必要になります。ですから定住プロジェクトはすごく大事だと思います。せっかく白井で良い教育をして良い子を育てたからには白井で活躍してもらいたい。

そうするには色々な対策が考えられます。例えば工業団地、あそこは今300社あって7,000人勤めていますが、あそこも今調査しているんですけど恐らく白井市民の就職率は2割とか3割しか居ないと思います。市内より市外の人が多い状況ですね。ライフワークバランスの問題もあるし、例えば通うにしても都心に近いので通いやすい、通学もしやすいというのがあるので、それで定住を図っていければ、なおかつ人を呼んでいければ、行政的に見ても持続ある運営ができるし、教育的にもかなり良いのではないかなというように思います。そこには白井高校ってすごく大きなキーだと思うんですね。業務的には直接の関係は無いでしょうけれども、恐らくかなり中学同士、交流あるはずですよ。その交流を深めてもらいたい。

今白井市役所でも各大学からインターン制度を取り入れて、数週間の期間大学生が来ているんですね。できれば白井高校からもインターンで来てもらって、仕事を実際に見てもらうとか、街を見てもらうというのも大事なので、先日校長先生にお会いしたときにもチラッとそういう話をしました。更に連携を深めて行きたいという話をしました。白井市に唯一ある高校になるので、活用というか、お互いにやっていければなと思います。

教育長は何か他にありますか。

○米山教育長 白井高校と義務教育の関係なんですが、やはり以前は壁があったというところがあったんですが最近には特に南山中学校と白井高校はプラスバンドがお互いに言ったり来たりしている。それとスポーツでも高校の先生に指導をお願いしたときに、現校長も前校長も快く応じていただき、南山中へ来てくれたりという形のつながりは出てきています。

反対に白井高校のプラスバンドが、今回ふるさとまつりの一番最初に演奏してくれたり、スポーツフェスタでもプラスバンドと白井の義務教育の子ども達と合同で演奏してくれたり、市の行事に参加してくれています。このように文化とスポーツの中では動きが出てきています。

白井高校の校長・教頭・進路指導の先生たちと義務教育の校長たちと話し合う機会があるんですが、そのときは本当のラフな話で、白井高校の就職先や進学先をレベルアップしてくれれば、市内の義務教育の子ども達ももっと白井高校に送りたいんだけど、といった話が出るし、白井高校からすれば、こういう安定した子どもが白井高校を受験してくれたら良いといったお願いが出たりといった話も出てきています。南山中学校を中心として、白井高校と中学校の連携は大分取れてきているのと、校長・教頭が単独で白井高校に行ってお互いに情報交換をしているというような活用も大分出てきている。

小林委員は白井高校の先生だったから、その辺は詳しいのかなと思います。

○小林委員 いくつか情報交換はしているはずなんですが、現場の高校教員はほとんど知らないんですよ。例えばプラスバンドが白井駅とかでクリスマスの時などにやっているというのも、そのプラスバンドに関係している人は知っているんですけども、一般の教員は新聞などで始めて知るという状況です。普段の先生方への情報提供というか、そういう効果がないといけない。

私が国際交流の仕事をしたときも、私は地元だからホストファミリーを探しやすかったんですが、よそから来てやっている先生は探すのが難しくて止めてしまったという経過があるんです。そういうときに地域の小中学校の情報を知っていて、気軽に市役所に電話をかけられて、ホストファミリーを探してくれないかという雰囲気が出来ていればもう少し続けられたかなと思います。白井高校は色々なことをやっていると思います。保育関係でも家庭科の先生がやっていたかもしれないのですが、赤ちゃんを世話するといったことも周りと提携してやっているらしいんですよ。だけど良く知られていないというんですね。

ですから一般教員までその情報が行き届くような仕組みが必要だと思います。先生の中には白井に住んでいる先生も何人か居るんですよ。ですから白井に住んでいる先生を何人か集めてちょっと話し合う機会とか、飲み会でも良いと思いますが、何かそんな風にしてもっと一般の先生方に知れ渡るようにする。私が英語の教員をやっていて、英語の中高で南山とやったりしたときも意外と先生と係わり合いが持て、それからインターンシップが白井高校がやっているのも色々な職場とかけあってとか、そういう連携があるはずなんですが、全体として先生方は小中のことは分からないというのが現状でした、私のときは。それをどういう風にしたら良いか。ただ、管理職に情報を与えてもそれからそれが一般に行き届くのは

意外と難しいところがある。

○伊澤市長 先ほど、教育長が教員免許について言っていました、何となく中学校の教員と高校は交流できるのではないかという気がするんですが。例えば高校の先生が中学校で授業するとか、中学校の先生が自分の送り出した生徒が沢山いれば、高校で自分たちの送り出した子がどのくらい進んでいるか見るということもできるのでは。そういう交流というのは出来るんですかね。

○米山教育長 今では白井高校との連携で生徒指導が必要な子が白井の義務教育から出ている場合で、高校の先生が生徒指導で大変だなというケースでは、元の担任が行っているような事例もあります。その辺の連携は取れてきていると思います。ただ、高校の先生は小林委員が言ったとおり、先生によって違う。極端なことを言うと白井高校の国際交流って、小林委員が異動したら2年後から無くなってしまったんです。エチューカとやっていたのが。そのときに居る英語の先生のやり方でころっと変わってしまうというのがあります。教育委員会と白井高校の管理職と連携を深めながら、あと、市内に住んでいる白井高校の先生が居るのであれば、小林委員を中心にして集まりを作ってくればまた皆で話し合いは出来るのかなと思います。

話は違っていますが、やはりこれから大きな災害があった場合などに各学校に白井に住んでいる先生は置いておかないといけないなということは3.11で痛感しました。ある学校においては白井に住んでいる先生は誰も居なかったということもありえるので。その辺も人事異動の際に考慮が必要だし、白井高校もやはり市内に住んでいる先生が居ることが必要なのかな、ということは思っています。市内に住んでいる先生方の、高校と義務教育の連携はやはり必要なかなというように思います。

○伊澤市長 今、4ページ関連の「学校教育の充実」と「生涯学習の充実」について高等学校の例を出して議論がありました。そのほか委員の方々から大綱について何かありますか。

○石亀委員長 今までの教育長の話の感想になってしまう部分もあるかと思いますが、先日、私と共に20年子育てをしてきた方が都内に引っ越しました。振り返ってみると、20年白井で子育てして本当に良かったねという話になりました。プラネタリウムに行って流星群を夜見たりとか、そういうプロジェクトには本当に参加してきてすごく良かったという話も出ました。

なぜ転出したかという、子どもも育ち、就職して、自分たちもあと残り定年を迎えるまでは5年から10年くらいとなったときに、通勤に便利なところ、やはり楽に通勤できる場所に引っ越したいということで引っ越したようですけれども、今まで90戸くらいのマンションに住んでいたところが、今では500戸のところに住んでいる。都内に住んで1年になるけれども、1年とは思えないくらいあっという間に時間が過ぎてしまう。だけれど、お隣の人が誰かは分からない。近所の人がどういう人かも全然わからないような状態であり、情報はメールやネットで全部来るという中でこれから退職してからどうやって過ごしていくかというビジョンは、はっきりと見えていない状況で新しい空間で便利に生活をしているというような状況を聞いています。

うちも含めて、本当に定年が10年あるかないかというところですが、そのあとどうやってこの街で

住んでいこうかというところが不安です。ずっと主婦であったりして地元で根ざしている人にとっては何となく市がやっているビジョンというのも分かりますし、市民大学などもあるということが分かるのではないかと思います。市が広報やホームページなどですごくPRしていただいているということも分かりますが、白井にはベッドタウンとして住んでいる人にとっては、知らないことが多いです。

市民活動をしている団体が沢山あるということも、市は広報していただいているのですが、一人ひとりにもっと伝わるにはどうしたら良いのかなということをしごく今思っています。

もう一つ、先ほど防犯ボランティアの話が出ました。ちょうど10年くらいから防犯ボランティアが盛んに立ち上がってきたと思うんですが、その方々も定年退職をした後で、「じゃあ、街で何をしようか」という中の一つで防犯ボランティアを立ち上げて、子どもを見守っていこうということで活動いただいていたのですが、今度はその方たちが引退したいという事が起きてきていて、「来春から終わりにします」ということで、立ち上がったんだけど10年たってそれが終わろうとしている。そうすると今度新たに定年する人たちに「防犯ボランティアやりませんか」というような、自治会であったり別の組織からの働きかけなんかも必要かもしれないんですけども、そういった定年後の活動として学校との係わりの一つに防犯ボランティアもありますとか、そういうPRも何かの形でやっていかないといけない。どうやって積極的な情報提供をしていくか、このネット社会で便利ではあるんですが、伝えたいところにどうやれば伝わるのかなというところは全てに共通していると思います。

もう1点、最初に教育長が仰った、習熟度別に分けて子どもの確かな学力作りということがあります。家庭の収入に係わらず、やはり今、要保護・準要保護の基準が厳しくなっているということもありますけれども、家庭で塾に行ったりするお子さんも沢山いるとは思いますが、家庭の収入に関わらず夢が持てる、「将来自分はこういう仕事に就きたい」というようなビジョンが描いていける、それをまた高校に繋いでいけるようなきめ細かい教育、今までやっていたキャリア教育といったことをより一層充実させて、習熟度別学習をすることによりキャリア教育に繋いでいけるような内容にしていければ良いと思います。

○伊澤市長 防犯ボランティア、これは市民活動の管轄ですが、学校で活動するボランティアが多いので、教育委員会の生涯学習部門と連携しながらその方たちの全体の活躍の場とか、後継者問題もあると思うんですね。そういう問題も生涯学習と一緒に市もやらせていただきたいと思います。

また、習熟度別の教育については教育委員会の方で色々ご議論いただければと思います。他に何かありますか。

○小林委員 4ページの生涯学習の充実のところ、学習した成果を市民生活や市民活動に活かせる仕組み、市民大学を卒業した方々が出来るだけ協力していけるような流れになっていると思うんですが、3学部あって結構人数も沢山いますから、その方たちが学んだことを活かしたいと思ったときに自分たちが始める前にそういう場があるというのが重要。どこかに登録しておいて、その情報を学校にも提供

して、学校の先生が「この授業のときにこのボランティアさんを使いたい」というか、そういうような仕組みがあったら活かせるのではないのでしょうか。ただし、それがお客様だと接待という形になってしまい、忙しい学校の中で逆に迷惑になってしまうので気軽に使えるというそういうような形でのボランティアの仕組みが出来れば良いと思います。また、ボランティアの人を呼んでも、1時間全部持っていかれてしまうと授業が遅れてしまうので、「この部分で10分だけお話してもらいたい」といった要望にも気軽に応えてくれる人が居ると良い。一方は10分でも話せると良い、もう一方は10分だけ話してくれると授業の理解が深まるということで、そういう上手いシステムが出来たら良いと思います。

○石亀委員長 それって昔、テレビでニュースになっていた市町村があって、ボランティアコーディネータという形で、ボランティアをコーディネートする機関を立ち上げて、学校とボランティアのニーズを上手く繋ぐ人たちというのがいて、その市町村ではすごく上手くいっていた。そこでも最初はちぐはぐだったものが上手くいくようになったというようなことが何年か前にニュースになっていました。

両方からの情報を責任を持ってきちんと集めて渡すという立場の機関というのが必要なのかなということだと思います。それにあたる機関がなかなか無いんですね。多分南山小学校だと思うんですが丸付けのボランティアの方とかも来ていて、そういう方の管理とかタイムカードを作るとかそういうこともあったと思います。小林委員が先ほど仰ったように接待まではしないと思うんですが、やはりそういう手間をかけなければ行けないと思う。地域の方からせかく集めても、今は活用されていないのではないかと思います。そういうコーディネートに時間を裂けるひとが必要なのかなと思います。

○伊澤市長 私も市民大学校で3年前から1コマ持っていて、卒業式するとき、大体学部ごとに懇親会をやりますが、卒業してから何かやりたいという意識が高くて、大体同学年でグループを作ってやっているんですね。平成18年からやっていて同じようなグループもあるので、中には縦串で一緒に活動しませんかということをやっているグループもあります。それを学校でやるという発想はあまりなかったんですね。だから今の発想はすごく有りだなという気がします。どうなんでしょうね、そういうことは可能ですか。

○鈴木生涯学習課長 市民大学校の卒業生の方々にそれぞれ活動されているということは聞いておりますが、数は把握できていないんですが、そういった人たちの中ではやはりグループ活動だとか、ボランティア活動だとか、それぞれ何をしたいのかということがバラバラな部分がありまして、今言われたボランティアという部分で街づくりの方でどうにか色々卒業後協力していただけたらどうかということのを伺いながら、活動を出来るだけしていただけるように働きかけをしているところですが、学校教育という部分への働きかけは多分無かったと思います。参加される方が募集の中で、どういう目的を持って参加するのかという部分から始まってくるのかなと思うんですけれども、後は「こういうボランティアはどうですか」といったときに、需要と供給のバランスが無いといけないので、「どうでしょうか」と言って登録しても、活躍の場が無いと意味が無くなってしまいますので、その辺も考えながら卒業後の活動を考えていかないとならないのかと思います。

○伊澤市長 それでは生涯学習課と学校教育課の話になると思うので、この4ページの「生涯学習の充実」について、これから具体的な詰めをしていくと思うので、先ほど委員長が仰ったようなことが可能なのか、もしくは学校が望んでいるのかということも踏まえて良く整理してもらえればと思います。

○米山教育長 現実的な話、総合学習の時間がすごく短くされていて、時間が理科とか算数関係の授業時数が増えている。

○伊澤市長 物理的に難しいということですね。

○米山教育長 少なくなったのと、今、市内のボランティアを必要としないのは保護者が全部対応できているということがあります。保護者が色々な仕事をしているので間に合っているというのが現状です。例えば、高城委員の旦那さんが白井中学校に行っているというのものもあるし、また、コマーシャル制作会社に勤めている人が子ども達にコマーシャルの作り方というのを学校でやっているし、元市職員だった人が桜台で農業の話もしています。今は授業時数も減らされてしまっているから、保護者で間に合っている。ただ、特別に学校からオーダーがあったものについては必要になるのかなと思います。ただ、企画政策課で講座を登録しているようなものもあったと思います。

○事務局 一つはなるほど行政講座というものです。生涯学習課でも人材バンクという登録制のものをやっています。

○米山教育長 そのへんをちょっと皆に知らせる必要はありそうですね。

○伊澤市長 ちょっとやってみてもらいたいですね。

○小林委員 教員をやっていた立場から言うと、あまり自分を売り込んでくる人は合わないですよ。とうとうと話されてしまうと。授業の中で学校の要望、たとえば10分だけでやってほしいとか、そういう要望に合わせた人が望まれます。1時間の授業を潰してしまうような人は駄目なんです。あくまでも1時間の授業を進める中でここで活用したいという要望に応じてくれる人が理想です。判断が難しいと思いますけどね。大体、噂とかを聞くと「この人はちょっと…」という人が判ると思いますので、学校の要望もはっきりと出した上でないと難しいところはあると思います。その活用の仕方というのは学校の要望に応じた活用になると思います。

○伊澤市長 そうですね。色々な成功例、失敗例があるようですから、検討をしてみてください。

○高城委員 専門知識のある人が学校に行くことによって、例えばプロのバイオリニストがいて、生で演奏を聞かせてあげたら、子ども達が音色に打たれて「将来はバイオリニストになる」とか、委員長がプロのアナウンサーですので学校に行ったらちょっと放送委員会をしてあげると「素敵だな。私もそうになりたいな」といった目標が出来るかもしれませんので、そういうことは必要かと思います。

○伊澤市長 あとは教育長が行ったようにカリキュラムの余裕の部分もあるんでしょうね。ちょっと事務局で検討してもらいたいですね。

○石亀委員長 小林委員が先ほど仰ったように、10分で良いのに1時間話されると困るということに関連するんですけれども、学習指導要領の壁みたいなものがあって、保護者で家庭科の授業を手伝いに

行っているんだけど、ミシンを使用する際にアイロンを掛けてからの方が楽でしょうと言っても、アイロンは学習指導要領に無いんです、授業の目標の中に。押し問答になってしまいがちです。先生は「アイロンは学習指導要領の時数には入っていない。この学年では。」と言う。そうやった方が効率が良いのに、先生にはいくら言っても判ってもらえない、ギャップがあります。以前は「だったらそうしてください」ということも出来たんでしょうけれども、そういう融通を利かせて良いのかいけないのか、そういうところって本当に難しいんだなと思います。それに懲りるときつと先生は保護者をもう呼ばないだろうし、保護者としても「どうせ行ってもね…」みたいなことで、悪い循環になってしまうと思います。本当に現場は大変だと思います。善意と現場の状況が折り合わない。

○伊澤市長 学校の校風も違うんでしょうね。

○川嶋委員 学校ごとの校風に合ったものが必要とは思いますが、無いものねだりで、第二小学区のお話を聞くと放課後子どもプランはすごく良いな、七次台小学校でも取り入れたいなと思ったんですが、ただ、どうやって取り入れたら良いかが分からない。私は今、七次台小学校のPTA本部をやっていますけれど、本部の1人の声かけで始まるものではないし、そこを誰かコーディネートしてくれるのか、どこに相談しにいったら良いかも分からない。だから繋ぐ人間が居なければ何も進まない、またその繋ぐ人間が見極めのできる質の高い人間でなければならないなと思います。

あと、ボランティアに関してもありがたいと思っています。うちも安全ボランティアの方が沢山来てくれてありがたいと思っています。ただ「ボランティアが居るから良いんじゃない？」という保護者が多いです。うちの学校では1年間に3～4回指定の日にボランティアをすることになっています。だけど私は子どもが学校に行く際には毎日1時間程度自主的に見回っているんですけども、私のような親は少ないです。「ボランティアが居るから良いじゃない。見回って欲しいのならボランティアに登録すれば良いじゃない。」という考え方なんですよね。サービスが充実するのは良いのですが、保護者の意識が低下していることがちょっと私には残念だなと思います。任せてしまえば良いでは困る。

私は家庭教育というか、親育ての授業をもっともっと増やしていかないと全体的に良くならないのではないかなと思います。もちろん教員の質を高めることも大事です。けどまず家庭の教育が充実しているからこそ外部で教育を受けてそれで良い子どもが育つと思っているので、何と申しますか子育てしている親へのサービス、戦略3のところの交流の場やサービスの提供の場などがありますけれど、これは具体的に何をどのようにやりたいと考えているのか、今ある既存の場所でそれをやるのか、もしくは新たに作っていくのか、これは5年の中でやっていくにはすごく壮大なことだなと思います。今は無いと感じているので。また、その交流の場があったとしてもそれを誰が管理してプロデュースしていくのかということも大事になると思いますし、ただやるだけだとある特定の人しか集まらない、いつも同じ人が集まるだけのような気がしているんです。だから、具体的に拠点をどうして行くかが本当に抜本的に改革していかなければやる意味は無いと思います。

○伊澤市長 ありがとうございます。まあ学校の校風もしくは地域性、地域の環境にもよると思うんで

すけれどね。教育を離れた街づくり、コミュニティ作りの話なんでしょうねきっと。ここの戦略3については基本的には地域づくり、コミュニティ作りなんです。これは市で全体をやっていくんですけども、教育で言っている取り組み目標のところの教育部門をどうやっていくかということはやはり、市と連携しながら教育部門はどうやっていくということを検討しなければいけない。具体的には市で今サロンをいうのを作っています。西白井複合センターのところでボランティアのグループを作っていて、そこで地域の、特に高齢者もしくは地域の人たちが来て、日を決めて時間を決めてそこで自由にコーヒーを飲んだり、コミュニティ作りをしてもらって、段々これが広まってきている。

ただ、サロンだけではないんです地域のコミュニティは。そういうのはどんどん作っていくのをこれからやっていくんですけども、それが行政が街づくりとしてやっていくこと。教育として今川嶋委員が仰ったように地域力ですね、教育の地域力をどうやって高めていくかというのは、市がやっていく戦略の中で教育としてどうやっていくかということを議論していただければ良いかなと思います。そして行政と一緒にやって行ければなと思っています。

その他はありますか。大分具体的な議論をして、大綱の素案については今回については議論は出尽くしたかなと思います。色々指摘のあった話とか議論で事務局の方でまた調整していただいて、総合計画と基本計画の状況を見ながら具体的な案を入れていただいて、またこの会議にかけていただければと思っています。

議題（1）はこれで終わります。

○議題（2） 意見交換について

○伊澤市長 議題（2）意見交換についてですが、大綱をからめてかなり意見交換も出来たと思います。今まで出た話以外にあればまた意見交換をお願いしたいと思います。

○米山教育長 大綱の策定とは別に新年度予算、またこれからのハード事業、ソフト事業を含めて市長と教育委員の話合いをしていく時間を作って行きたいと思うので、この大綱の会議という話ではなくて、市長が空いている時間で教育委員会議の余った時間などがあれば市長に来てもらって、やはり今法律上は教育委員会で事業計画を作って進めていくと。ただ、予算の編成権は市長にあるのでその辺の話合いができていないと教育委員会でいくらやりたいといったところで市長の方で予算編成をしなければ事業展開は出来ないというところがあるので、やはり予算と事業目標を含めた形の打ち合わせが必要なので、このように日程調整をして会議という形でやるのではなく、教育委員は色々な会議で市役所に来ているので、市長の空いている時間に合えば、色々な意見交換をしていきたいと思っています。

○伊澤市長 是非お願いします。こういう総合教育会議という形をとらなくても色々な意味で時間の許す限り意見交換が出来れば私も助かるし、教育委員会と一体になって街づくりをやって行きたいと思いますので、是非お願いしたいと思います。

○米山教育長 市長、最後に後継者育成をちょっとみんなで話したいです。農業などの後継者育成もある

だろうし、教育委員会でも持っている団体がみんな高齢化してきている状態です。ただ、40代・50代の人にやってもらおうとすると、やはり仕事がメインであって出来ないよという事になる。スポーツ推進員であるとか文化団体協議会とか色々な形でやっていく上で後継者を育成する専門家に近いような人が居ないと出来ないのかなとというようなところもあるし、それは生涯学習のところで試行錯誤しながらいくつかやってみて後継者作りというのをやる必要がある。市長部局も相当色々な団体があって、高齢化を迎えているはずなので、ちょっとそういう専門家が居れば相談をしてもらって、後継者を作っていくにはどんな形でやれば良いか。あとは成功事例を他市町村であればそれを真似るような形でやっていかないといけない。それを生涯学習課の中で進めていってみたいと思います。

○伊澤市長 市長部局でも今言ったように結構団体の高齢化が進んでいます。同じ時期に発足して同じメンバーでずっとやっているというのが結構多いんですよ。だから一気に高齢化してしまっている。だからやはりそれは確かにその通りだと思うので、良い事例とか良い方策があれば検討したい。

○米山教育長 後継者育成というのは口で言うのは簡単だけど実際にこういう形で成功しているというのはすごく少ないと感じています。

○伊澤市長 団体も含めて、農業や商工業もそうだし、全体がそうかもしれない。是非お願いしたいと思います。委員長さんは何かございますか。

○石亀委員長 後継者作りというのは本当に教育長が仰ったとおりですが、自分たちも後継者になっていかなければならない世代になっていると思うんですけど、後継者と一口で言ってもどういうふうそこにいけるのかという、ちょっと敷居の高さを感じます。一から立ち上げるならとにかく、もう出来上がっているところに入っていくには、どういうふうに活動していけば良いのかなと思います。住み続けたい白井に貢献できることがあるか、どうしたら良いか、一段づつの目標が見えると良いなとぼんやりとですが考えています。

○伊澤市長 小林委員はありますか。

○小林委員 緑ですかね。ニュータウン地区に住んでいる方に聞くと行ってみたいという人は沢山居るんです。ただ実際に行く機会が意外と無いということです。だから交流拠点サロンというか、本当の意味で一つになるために交流し会えるようになる。これはコーディネートというのがあればもっと良くなるかと思えます。緑の地区の人たちはそこで日常生活をしているわけですよ。だからそこに行った時にそういう人達に声を掛けるのは駄目なんです。そういう中にも余裕のある人が居て、そういう人たちとやっていくことでその辺を紹介してもらえとかね。上手くやると緑を享受しながら良い街だなと感じてもらえると思います。そしてそこに居る人たちもただ緑を喜んでもらうだけではなくて、自分たちも着てもらうことで恩恵を受けるようなものがあると良いですね。まあ、梨は売れると思いますけどね。他のことでも恩恵を受けるようなことがあるとよいのではないかと思いますね。

○伊澤市長 高城委員はありますか。

○高城委員 後継者というより、私は逆に白井地区の総合型スポーツクラブに入ろうかなと思っています。

本当はその指導者とかも必要なんでしょうね。とりあえず何かを始めてそこから技術を磨いて、いずれは指導者になっていければ良いんでしょうか。

○伊澤市長 余談ですが、ふるさと大使のイワイガワさんの関係で、イガワさんのNHKの昼の番組でこの前ふるさとまつりで収録された内容が放送されます。収録は1時間15分くらいやっていました。高城委員さんの特別なメニューもできましたよね。

○高城委員 ミートと梨のまるごとパイですね。

○伊澤市長 それを食べたイワイガワさんの感想が「これはおでんの大根か。」という感じでした。ふるさと大使の皆さんのおかげで、マツコデラックスの番組の収録があって、マツコさんのロイドが来て、桜台小で鷹匠をやったり、そのときも4～5時間車庫で鷹の練習をやったり、ホリさんもかなりその番組の中で白井を紹介してくれています。ジネンジャーとかなし坊とかも出たりしました。かなりふるさと大使の皆さんは頑張っていると思います。今回も白井出身のイワイさんじゃなくてイガワさんの方の番組で紹介していただいたということで、少しずつプロジェクトに近づいて、何とか魅力ある白井市を発信できるかなと思っています。

川嶋委員はありますか。

○川嶋委員 私は10月から委員になったんですけども、ちょっと自分が入るのはどうかな、私に本当に勤まるのかしらという思いがあるんです。まさに今子育て世代でバタバタしていますし。けどすごく自分がやりたいこと、教育の委員に就けたのはすごく誇りだし、そういうものをお友達にもちょっと自慢しているんですけど、そういう人間を見て刺激を受けて欲しいなと思います。私のように関心があっても手を上げるまではいかないですよ。けどやりたい気持ちは皆さん持っていて、そういう人たちをピックアップできるような場づくり、そういうキラリと光る素材というか、そういう人たちが集まる場を是非作っていただきたいなと思いました。たまたま白井フェミナスというイベントで実行委員だったり、お話をさせていただいたりという事があったので、そこからのお声かけであったのかは分からないのですが、やはりそういうふうにやってみたい。興味はあるという方は沢山居ます、私たちのような子育て世代でも。そういう人たちもピックアップする、発見するというのが課題なのかなというように思います。

○伊澤市長 委員が言ったように活躍の場とか、門戸を広げるとか、色々なチャンスというか場を作るのも行政の仕事の一つでしょうからね。これは街づくりの方でも活かしていければと思います。

○米山教育長 このような機会を少しずつ時間をつくって意見交換会をやっていきたいと思います。よろしくをお願いします。それと基本計画が議決された段階でこの大綱も正式な決定をするということで進めていきたいと思いますので、最終的には2月か3月に大綱の決定の会議をもう一回やりたいと思います。

○その他

○伊澤市長 それではその他として、何かありますか。

○事務局 それでは先ほど教育長が申しましたとおり、次回の第3回ですが2月もしくは3月で予定し

ておりますのでよろしくお願ひいたします。

○伊澤市長 では日が決まり次第お願ひします。それでは長時間にわたり貴重な意見をいただきありがとうございました。以上を持ちまして第2回白井市総合教育会議を終了いたします。本日はお疲れさまでした。

午前11時35分 閉 会